<学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業　取組事例>

葛巻町放課後子ども教室推進事業

自治体名

岩手県葛巻町

学校数

小学校　5校　　中学校3校

震災後の地域の状況・仮設住宅数

当町は岩手県の内陸北部に位置しており、震災による建物倒壊や死傷者、行方不明者等はないものの、災害に対する不安は高まっている。

＜取組名＞　葛巻の郷土食を知る「へっちょこだんごを作ろう！」

取組概要

実施形態（該当に○）	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	（連携している団体等・大学の名称）
	○			NPO 法人　岩手子ども環境研究所
実施主体・場所等	**コーディネーター数**	**ボランティア延べ人数**	**年間実施日数（回数）**	**活動場所**
	1			葛巻町立葛巻小学校

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
					（　　）
学校と地域の協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
			○		（　　）
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
		○		○	（　　）
家庭教育・保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
					（　　）
地域課題に応じた学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
	○				（　　）

＜取組の内容を具体的に記載＞

放課後子ども教室「わいわい遊びの学校」

～葛巻の郷土食を知る「へっちょこだんごを作ろう！」

・対　　象：放課後子ども教室「わいわい遊びの学校」参加者（葛巻小学校児童）

・場　　所：葛巻小学校家庭科室

・内　　容：町の婦人団体から協力を受けながら、郷土食「へっちょこだんご」の小豆を煮、きび粉をこねて・まるめて団子し、作るところから、食器を出し盛りつけ、後片付けまで子どもたちが行う。

・実施時期：秋～春（開催時期変動）

・実施回数：年2回

・連携団体：葛巻町更正保護女性部

取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

岩手県内陸北部に位置する本町では、東日本大震災による大規模災害は発生しなかった。しかし、震災以降は災害に対する不安は高まっており、実際、放課後に大人が誰もいない場所で遊んでいると、緊急時に連絡が取れない、安否確認が出来ないなどの課題もあり、地域ぐるみで子どもたちを支えていく体制を整えていく必要がある。

◇住民等からの要望・必要な取組

食の多様化が進み、ファーストフードやインスタント食品など、子どもたちを取り巻く「食」の環境が懸念される中、「食」の安全・安心が求められている。

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

・コーディネーターは NPO 法人岩手子ども環境研究所「森と風の学校」の職員に依頼をしている。

・学校の教職員には放課後子ども教室のチラシの配布（作成は町教委）や日誌の管理など現場の管理をお願いしている。

・だんご作りには葛巻町更正保護女性部と連携し、町の婦人団体の協力を受ける。

◇取組の充実や課題解決のための工夫

地元の食材を使用し（地産地消）、古くから伝わる伝統食「へっちょこだんご」を、地元のお母さんと子どもたちが触れ合いながら、一緒に作ることで、「食」に対する興味と「生きる力」を育み、手間と愛情をかけて作る（スローフード）「本物のおいしさ」を知ってもらうことをねらいとし、年 2 回実施している。

成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

地元の色々な年齢層のお母さんたちと触れ合いながら、郷土食を作ることで、世代間交流が図られるほか、「食」に対する興味がわき、家庭でも手伝いをしたり、後片付けをする「しまつ」のしつけにも繋がっている。

また、町の郷土食の良さを知り、手間と愛情をかけて作る、「本物のおいしさ」の発見や「食」をつうじて、「生きる力」を学ぶ機会となっている。

◇課題や今後の展望

現在、葛巻小学校教室だけで実施しているが、今後はこの取り組みを、他の教室でも実施していきたい.